

ン持つてるんだ、ラッキー」など、極めて合理的に物事を考えるようになった。

女性のほうも、とくにアラフォー年齢を過ぎると「生活へのこだわり」が強まり、いまさらリセットするのは面倒と考える。「結婚（同棲）相手が合わせてくれるほうがラク」と考えやすいから、両者で見事にマッチングが成立するのだろう。

ある不動産関連サイトが、20代以上の全国1280人を対象に行なった調査でも、独身時に住宅を買った男女の52・8%が既に結婚しており、「独身でマンションを買うと結婚できないと思うか？」との質問にも、「NO」が多数派だった。具体的には、「そうは思わない」と回答した人が、独身者を含めて7割以上（70・8%）もいたのだ（※）シースタイル「スマイスター」調べ、17年）。

## おひとり様の「マンション購入適齢期」は？

もつとも、シングル女性がマンションを買うのは「勢い」だけではないようだ。

まず考えられるのは、「投資目的」。ある研究会が20〜60代女性に行なった調査でも、購入者の半数以上が、39歳以下でマンションを購入。そこにひとりで暮らす女性が72%い

る一方で、賃貸で家賃収入を得るなど「投資目的」での活用も11%を占めていた（※）女性のための快適住まいづくり研究会調べ、16年）。

とはいえ、一般に男性に比べれば、女性の投資志向は弱い。また、いわゆる「マンション購入適齢期」についても、一若いころより40歳前後」だとの声も根強くある。

同研究会代表の小島ひろ美さんも、以前取材した際、一持ち家を持つことは、おひとり様の漠然とした将来不安の軽減にこそ、大きく作用する」と話していた。

「マンションを買ったあと、いきいきし始めるアラフォー女性がいるのも、たぶんその不安が軽減されるから。『家さえあればなんとかなる』『いま頑張ってローンを払い終えれば家賃を払い続けなくてもいい』と前向きな思考に切り替わることで、ゆっくりにお風呂に付き、暖かいお部屋でぐっすり眠れて、心身にもプラスに働くのでしょ（小島さん）」

先の「スマイスター」の調査でも、独身時に住宅を購入した女性の最大の目的は、「老後を考えて」（21・6%）。

小島さんが言うとおり、体力が弱り始めるアラフォー以降のおひとり様は、「もし将来、家賃が払えなくなったら」と考えやすい。ゆえに自分の城を確保しておきたいのだろう。

一方、こちらもお会いしたファイナンシャルプランナーの深田品恵さんも、買いと